

令和4年1月21日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：斉藤、手嶋、今野、柏瀬

〒270-1166

我孫子市我孫子1684番地

TEL:04-7185-1583(直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

171号



1月の月例会について

1月の月例会には、文化・スポーツ課今野より2月22日(火)正午から開催する寄贈資料展示会の解説がありました。

寄贈資料展示会

「眠っていた歴史を起こしてみよう！」

○概要

会期 令和4年2月22日(火)から3月7日(月)まで(2月28日休館)

会場 アビスタ 2階 展示室

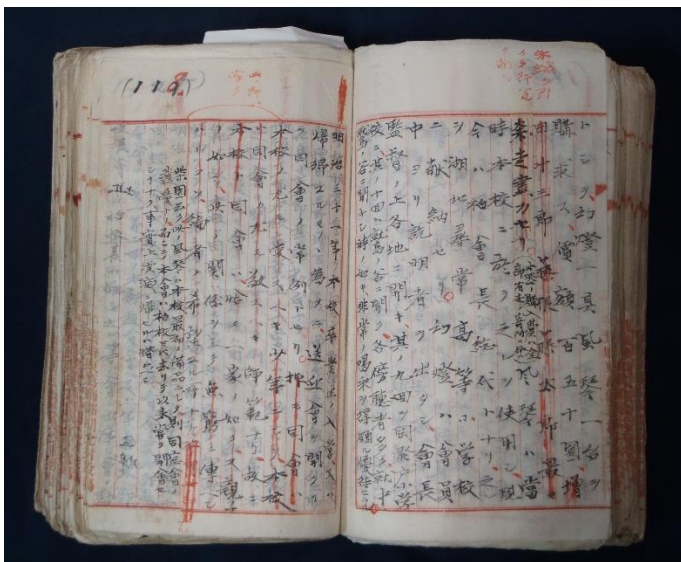
湖北地区に関する資料を寄贈される機会が多かったので、その資料を公開します。

○『湖北村誌』原稿

この資料は、『湖北村誌』を出版するにあたって作成された原本です。全て手書きで書かれており、欄外には中野治房による注意書きや印刷する際に出版社に出した指示などが書かれています。

出版された本では削除された文書などがわかることから、どのように本が成り立っていったのか知ることができます。

また、文章は格式高く、かなり漢文に長けた人物によって書かれたことがわかります。



○『湖北村誌』とは

大正4(1915年)、大正天皇の即位(御大典)の記念事業として、東葛飾郡(現千葉県)は『東葛飾郡誌』を編纂するために、郡の町村にその地域の誌を編纂することを依頼しました。そのときにまとめたものを『湖北村誌』をとって、大正9年、湖北村役場が発行しました。村誌の内容は、当時の村の概要や歴史を記しているため、歴史資料としても価値のあるものです。また、我孫子市内で刊行物として大正時代に村の歴史をまとめたのは『湖北村誌』のみであることから貴重な資料といえます。(『布佐町誌』は私家版の町誌として残っています)

○『湖北村誌』を編んだ人々

【菅井敬之助】(1855年～1937年)

中峠村、漢方医の家に生まれる。江戸で漢学や漢方を学びました。明治18(1885)年父が没すると家業の漢方医を継ぐために故郷に戻りました。我孫子では、村医、学校医であるとともに、村会議員も務めました。

『湖北村誌』の著者です。編纂を大正6年に湖北村長から委託され、大正8年に完成しました。

『湖北村誌』の原稿を見ると、「湖北村役場」の原稿用紙が使われており、このことから公的な事業であったことがわかります。

【中野治房】(1883年～1973年)

中里村に生まれる。湖北尋常小学校を卒業し、東京帝国大学(現東京大学)理科大学植物学科に入学、手賀沼の水生植物を初めて調査しました。その後、水産講習所(現東京海洋大学)、東京大学、東邦大学などで教鞭を執りました。

植物学者として研究・教育に携わるとともに『湖北村誌』の校閲、湖北村長、湖北文化連盟の会長など、地域のために様々な役割を担った人物です。

○山岡鉄舟の書

『湖北村誌』の復刻版では『『湖北村誌』をめぐって一編さん関係者の人物像と戦後の顕彰』が付録としてあります。そのなかにある「菅井敬之助論」で山岡鉄舟より菅井敬之助に贈られた書という写真が掲載されています。その書が近年我孫子市に寄贈されました。

山岡鉄舟は江戸に住んでいた人なので、菅井敬之助が江戸で学んでいた時代に交流があり、書が贈られたと考えられます。書の左側には「為菅井氏（すがいしのため）」と書かれており、二人の交流が窺えます。



【山岡鉄舟】（1836年～1888年）

江戸に生まれる。幕臣として徳川慶喜から直々に使者として官軍の駐留する駿府（現静岡）に行くよう命じられ、単身で西郷隆盛と交渉し、江戸無血開城の立役者となりました。

維新後、明治政府では静岡藩権大参事（現副知事相当職）、茨城県参事（現知事相当職）、侍従、宮内庁少輔（卿：大臣相当職→大輔→少輔）などを歴任しました。勝海舟、高橋泥舟（旗本、槍の使い手）とともに「幕末の三舟」と称されています。

○『増田實日記』とは

増田實が書いた大正5（1916）年、17歳～昭和34（1959）年、60歳までの日記です。途中、2回、17年間にわたっての空白がありますが、農家を家業とした一個人の日記が世に出ることは珍しく、当時の農村や民衆の生活の様子、農家経営の変化、社会状況などがまとまったかたちで克明に記されています。

【増田實】（1899年～1960年）

印旛郡大森町（現印西市）の武藤家に生まれる。大正9（1920）年に湖北村の増田家に婿養子として縁組します。昭和3年に分家し独立した増田實は布佐の井上二郎が主導した相島耕地開墾

事業に参加したり、成田線を利用した行商を行ったりしました。これら我孫子市の歴史を語るうえで大切な事象を日記に記しました。

日記から増田実の向学心が強い様子がわかります。また、中峠地区の青年館の資料を見ると雑誌『白樺』などが所蔵されていることから、湖北地区に住む青年たちが学問や文化を愛する様子を窺えます。

以上の資料を中心に寄贈資料を紹介する展示を行います。ぜひ、お越しください。

事務局より

2月2日（水）～20日（日）までアピスタ2階展示室で千葉県北西部地区文化財速報展「足元に眠る歴史」を行います。千葉県北西部地区文化財担当者連絡協議会（我孫子市、市川市、浦安市、柏市、鎌ケ谷市、流山市、習志野市、野田市、船橋市、松戸市、八千代市以上、11市）が主催する展示です。我孫子市からは昨年、江戸東京博物館他で開催された「発掘された日本列島」展に出展した下ヶ戸貝塚のミミズク土偶が展示されます。我孫子市近隣市で発掘された考古資料も一挙に展示しますので、こちらも、ぜひ、ご覧ください！

今回のおたよりに研修会のご案内を同封しました。3月に佐原を訪問する予定です。佐原のガイドさんに街並みなどをご案内していただいた後、山車会館、香取神宮に行く予定です。香取神宮に関しては、たっぷり見学すると2時間30分かかるとのことでしたので、1時間くらいで見学できる範囲を散策する予定です。5月にも研修会を行う予定です（富岡製糸場を予定しています）、無理なくご参加ください。

志賀直哉邸跡書斎のクラウドファンディングですが、皆さまのおかげをもちまして、無事終了しました！ありがとうございました。1月17日現在で1,288,000円、186人の方にご賛同いただきました。

新型コロナウイルス感染状況により、**旧村川別荘現地でのガイド活動を2月13日（日）まで休止します**。別荘は通常どおり開館しています。

次回の月例会は令和4年2月2日（水）午前9時30分から教育委員会大会議室で開催の予定です。